ねずみの餅つき

むかしむかしあるところに、じっちゃと、ばっちゃがあったそうな。ある日、じっちゃが庭をはいていると、豆粒一つ拾ったと。「ばっちゃばっちゃ、この豆っこどごさやればえ」。「ねずみ穴さでも入れでやればえね」。豆をもらったねずみは大喜び。さっそく餅をつき、その豆で豆の粉をつくって、じっちゃを呼びに来たど。「これねずみや、どうやってこの小さい穴さ入っていけばえ?」「じっちゃ、目つぶっておれのしっぽさぎっちりつかまれ」。するといつの間にかねずみの家に着いていた。じっちゃは餅をたらふくごちそうになり、ばっちゃにもおみやげをもらって家へ帰ったと。

この話を聞いた隣の欲張りばっちゃ「オラのじっちゃにも、やらせるべ」とわざと庭に豆を落として聞いたとおりにやらせたと。ねずみに連れられていった欲張りじっちゃは、おいしそうな餅をみるとみんな欲しくなった。そこで「ニャーオン」と猫のなきまねをしたと。あわてたねずみ達は灯明(あかり)を消してみんな逃げてしまい、あとには餅ものこらず、真暗なところに欲張りじっちゃただ一人。あちこちぶつかって傷だらけになりながら、ようやく家にたどりついたとさ。

トッピンパラリのプー